

社説

日本の進歩見るに足らず

日本の國勢は近年來非常に進歩したりと云ふ事實に相違なしと雖も其進歩とは單に國內の有様を前後比較して自大自小から喜ぶのみ若しも世界の趨勢を眼中に認め日本も亦世界の一體として其大勢の前に顔を並べんとするときは我進歩の如き計ふるに足らずして只赤面の外なきを發見す可し第一に海陸の兵力を如何と云ふに日清戰爭の結果は日本に於て右を右來未嘗有の大捷に相違なければ其對手を見れば老朽腐敗の支那にして既に自から倒れんとしつゝありし處を推して倒したるまでには過ぎず三十年前英佛の同盟軍が僅々の兵數を以て北京まで侵入し城下の盟を成さしめたるが如き當時支那の軍備は極めて幼稚にして今日同一視す可きに非ずと雖も支那の武國に非ざるは此事實に徴するも甚だ明白なり又前年クルムヘ提督が少數の艦隊を以て彼を苦しめたるが如き何れも支那の無力を證するものにして我國の戰勝面より美事ならざるに非ずと雖も若しも戰争の對手は何時も支那兵同様と思ふものもあらんは非常の閑達なれば角に彼の國は未だ以て我實力を試みるに足らずとして戰後の軍備擴張に軍費何十億兩兵何十萬人を増すの計畫を聞けば大に驚て其過大を云々するものも多けれども世界の列國が軍備に汲々として東洋の極端迄も常に何萬噸の軍艦を派遣し置くものに比すれば果して如何、我國の全力を擧るも彼の列國の東洋に於ける海軍力に劣るも尚ほ遠きの事實を知らば實際の實力は別に比較するまでもなく自から懸隔の甚だしきを悟るゝならん東洋の覇權云々などいふは殆んど雲を握むの談と知る可きのみ次に輸入の増加は貿易の發達に外ならず數年前までは六七千萬圓強のものが昨明治二十九年には二億圓に上り非常の進歩に相違なければ之を西洋諸國の昨年度輸入總計即ち英國の七億三千八百萬磅、佛國の七十二億四千九百フラン、獨逸の七十六億四千九百マルク(一昨年度)露國の十二億二千八百萬ルーブル(一昨々年)、米國の十六億四千二百萬弗に比すれば如何、計ふるにも足らぬ數にして假令三三年來の如き勢を以て進むも彼等の次に列するは容易に非ざるのみか我にして進むときは彼も亦その割合に進む可きが故に好しや進む付かざるまでも甚だしく賤れざらんとするには非常の警覺を以て永久進まざる可らず前途甚だ遠しと云ふ可し況んや學問教育の如き三十年來の進歩と云ふも實際に何の見る所ありや官私學校の設立多し新教育を受けたるものも少なからざるに拘はらず世間を見れば世に於ては多岐、まじなひの類又は彼の淫靡を崇拝して御膳水を濫費するなほ尙ほ一般に流行して洋服を服し洋食を食して新日本の紳士と稱する輩さへも是種の態を脱するもの甚だ少なりと云ふ學問進歩の實情何れの邊に顧む可きや今の日本人多數の心を支配するものは矢張り歐米五國の模範にして其表面の皮を剥きしは百鬼夜行も甚ならず文明開化の光甚だ暗く見ても可し之の如き大膽にして自から其進歩の進歩を比較して單に一步を進めたるに過ぎざるのみ世界大勢の面前に對すれば依然たる

吳下の阿蒙にして今後その大勢の渦中に捲かれて果して能く立國の運命を全うし得べきや否や前途甚だ掛念の至りにして苟も油断す可らず殊に彼の戰争以來は外國人の日本を視るも以前の如くなり漸く不安の念を催はして動もすれば我進路を妨げんとする事實は實際に徴して疑ふ可らず容易ならざる次第にして所謂臥薪嘗膽大に警しむ可き時節なるに近來の様子を見れば一般の人心戰慄の虛榮に酔ひて妄安自から安んじ世界大勢の所向を察せずして自大自小から喜ぶとは何事ぞや殊に洋學者の輩なきが何時しか自家の本分を忘れて恰も俗流に降参し洋書のみ高閣に束ね去りて曾て開きたるもともなく書畫骨董を弄び茶曲の湯などに耽りて若隱居を氣取るが如き沙汰の限りにして一見嘔吐を催はすの外なし社會の流風かくの如くにして自から後進の知らざるときは我立國の運命を如何す可きや苟も學者先達の士人は警世の木鐸を以て自から任じ大に警覺せざる可らざるものなり

東京の市政

道路の破壊より生ずる損害

以上述べ來りたる事實に依れば今後東京は益々繁盛して往來交通頻繁と爲ると共に道路の破壊力も次第に進む可きは明白なるに然るに當局者が因循姑息にして大計を立てず或は漫に費用を節して改良を思はざるは奇怪至極と云はざる可らず元來首府の市街は田舎の道路と其性質を異にし東海道中仙臺の如く單に旅人并に運輸の爲めのみならず市中常住の都民と市外より入り來る地方人などが依て以て人事百般の用を辨じ交際を便にし快楽を圓滿ならしむるものなれば常住市民の爲めには此街上より新鮮の空氣を得ると共に水道瓦斯管又は電信、電話、下水等大凡市街として備ふ可き地下の設備は皆街路の下を通じて之を供給せざる可からず文明の都府は恰も一大公共家屋にして其街路は猶ほ長廊下の如く兩側の家屋は唯是れ此家屋内の居室のみ故に此居室を購ふて住居するものは田舎に住居して孤立の家を有するとは其資格自ら異なりて己が居室の内部のみを清潔にし又美觀にしたるのみにて其任を盡したるに云ふ可らず廊下の蜘蛛の巣を拂ひ床板の破損を繕ひ一家全體を清潔健固にして始めて可ならんのみ文明國に於ては人口僅に數萬に足らざる市街と雖も其住民が街路の爲めに資を投ずるは恰も我家の普請に錢を出すと同様に或は石にて疊み又は木口切の木にて埋め立て若しくは煉瓦アスファルトを敷くなど十分は手入して地面の腐を其儘街路に用ふるものなし左れば雨天の爲めに泥濘を妨げらるゝもどなく車馬は滑るの如くに往來し人は衣服を汚し靴を泥塗れとするの憂もなし然るに我東京市街の有様は前記の如くにして其不始未は田舎道の上に出づるものあり西洋にて田舎道を造るに左の十種あり

- 第六 碎石道路
第七 砂利道
第八 板道
第九 丸太道
第十 土砂道
以上の十種は西洋の田舎道にして東京市中の道路を此田舎道に比ぶるも尙ほ其七番目なる砂利道にあらざれば十番目の土砂道に過ぎざる可し不便不穩は則して損害の少なからざるを如何せん先づ其直接の損害を云はんには技師モリス氏が調査したる結果を見るに乾燥して滑かなる最上等の碎石道路なれば五十頭の馬を使用して二噸半の貨物を運搬するを得れども若しも其道路濡み且つ塵埃の積る時は七十一頭を要し尙ほ少しく破壊して車轍を現じ泥土を生ぜし場合は百二十頭を要す可し又其道路碎石に非ずして上等の土砂道なれば百九十二頭を要し堅固なる土砂道の上に一寸五分の砂利を置きし道なれば二百四十五頭を要す可しと云ふ今若し此割合を以て雨天の時の東京道路を推算する時は其要する馬の頭數如何なるやを知り得べし前々號に記したる總計を見れば東京市中の車の數は馬車五百輛、人力車四萬輛、荷車五萬輛なり然るに此車輛は晴天の時に於てすら道路惡しき爲め西洋の田舎道を運轉するもの四分の一の動きを爲すに過ぎず況して雨天の時は其動きの減少するも非常にして碎石道路の値に破壊したる場合に於てすら五十頭に對する百二十頭即ち二倍餘を要するに比ぶれば東京の市街は晴天の時

地

十萬圓の損害を生ぜば斯る損害を生ぜば四倍の運送力を要す或は水道とし其の効用を増す可し